



# 2023年3月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2022年8月1日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 東  
 コード番号 4528 URL <https://www.ono.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 相良 暁  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員コーポレートコミュニケーション統括部長 (氏名) 谷 幸雄 (TEL) (06) 6263-5670  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け )  
 (百万円未満四捨五入)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	106,722	22.2	38,162	28.1	39,041	26.7	29,528	22.5	29,477	22.4	29,697	30.8
2022年3月期第1四半期	87,363	16.6	29,792	10.2	30,804	8.8	24,108	12.0	24,074	12.0	22,696	△29.4

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	60.37	60.36
2022年3月期第1四半期	48.23	48.22

### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	764,187	677,702	671,894	87.9
2022年3月期	739,203	661,674	655,906	88.7

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	28.00	—	28.00	56.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	33.00	—	33.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	425,000	17.6	145,000	40.5	146,000	39.0	110,100	36.5	110,000	36.6	225.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期1Q	517,425,200株	2022年3月期	528,341,400株
2023年3月期1Q	29,180,909株	2022年3月期	40,096,713株
2023年3月期1Q	488,244,535株	2022年3月期1Q	499,146,863株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当第1四半期の経営成績の概況	2
(2) 当第1四半期の財政状態の概況	3
(3) 当第1四半期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	11
4. 補足情報	12
(1) 主な製品の売上収益と予想	12
(2) 売上収益の内訳	12
(3) 地域別の売上収益に関する情報	12
(4) 開発品（がん領域）の主な進捗状況	13
(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況	16

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当第1四半期の経営成績の概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期 連結累計期間	2023年3月期 第1四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	87,363	106,722	19,359	22.2%
営業利益	29,792	38,162	8,370	28.1%
税引前四半期利益	30,804	39,041	8,237	26.7%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	24,074	29,477	5,403	22.4%

**【売上収益】**

売上収益は、前年同期比194億円（22.2%）増加の1,067億円となりました。

- ・抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、競合他社製品との競争が激化する一方、胃がん一次治療、食道がん術後補助療法、非小細胞肺癌がん一次治療などでの使用が拡大したことなどにより、前年同期比51億円（17.4%）増加の341億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は131億円（前年同期比75.3%増）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は62億円（同9.4%増）、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は60億円（同6.7%減）、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は22億円（同12.6%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は21億円（同3.1%減）、抗悪性腫瘍剤「ベレキシブル錠」は21億円（同45.1%増）、パーキンソン病治療剤「オンジェンティス錠」は12億円となりました。
- ・長期収載品は、薬価改定の影響などにより、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は11億円（前年同期比6.5%減）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は7億円（同36.3%減）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、前年同期比77億円（28.8%）増加の346億円となりました。

**【営業利益】**

営業利益は、前年同期比84億円（28.1%）増加の382億円となりました。

- ・売上原価は、製品商品の売上が増加したことなどにより、前年同期比41億円（18.1%）増加の269億円となりました。
- ・研究開発費は、研究に係る費用および早期臨床試験に係る開発費用の増加などにより、前年同期比42億円（27.3%）増加の194億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前年同期比28億円（14.6%）増加の217億円となりました。

**【四半期利益】（親会社所有者帰属）**

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比54億円（22.4%）増加の295億円となりました。

## (2) 当第1四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 連結会計年度末	2023年3月期 第1四半期 連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	739,203	<b>764,187</b>	24,983
親会社の所有者に帰属する持分	655,906	<b>671,894</b>	15,988
親会社所有者帰属持分比率	88.7%	<b>87.9%</b>	
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,343.40円	<b>1,376.14円</b>	

資産合計は、前期末に比べ250億円増加の7,642億円となりました。

流動資産は、現金及び現金同等物や売上債権及びその他の債権の増加などから307億円増加の3,120億円となりました。

非流動資産は、投資有価証券や無形資産の減少などから58億円減少の4,522億円となりました。

負債は、未払法人所得税の増加などから90億円増加の865億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、剰余金の配当があった一方で、四半期利益の計上などから160億円増加の6,719億円となりました。

## (3) 当第1四半期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期 連結累計期間	2023年3月期 第1四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	61,045	<b>69,112</b>	
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,756	<b>33,078</b>	26,322
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,121	<b>△1,320</b>	3,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,276	<b>△13,355</b>	△78
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△11,641	<b>18,403</b>	
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	57	<b>424</b>	
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,462	<b>87,940</b>	

当第1四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の増減額は、184億円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及びその他の債権の増加額101億円や仕入債務及びその他の債務の減少額59億円などがあった一方で、税引前四半期利益390億円などがあった結果、331億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資の売却及び償還による収入29億円などがあった一方で、有形固定資産の取得による支出22億円、無形資産の取得による支出16億円などがあった結果、13億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額127億円などがあった結果、134億円の支出となりました。

(4) 今後の見通し

通期の業績につきましては、2022年5月11日に発表いたしました業績予想から変更はございません。新型コロナウイルス感染症による事業および業績への影響につきましては、引き続き一定の活動制限が継続されることを想定しておりますが、営業利益に与える影響は引き続き軽微と見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準（IFRS）を適用しております。

## 3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2022年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	69,112	87,940
売上債権及びその他の債権	99,788	110,138
有価証券	60	20
その他の金融資産	47,797	48,224
棚卸資産	41,817	42,641
その他の流動資産	22,692	23,043
流動資産合計	281,266	312,007
非流動資産		
有形固定資産	112,131	110,718
無形資産	64,734	63,124
投資有価証券	125,046	121,210
持分法で会計処理されている投資	108	113
その他の金融資産	127,302	127,237
繰延税金資産	25,074	26,061
退職給付に係る資産	377	362
その他の非流動資産	3,165	3,354
非流動資産合計	457,937	452,180
資産合計	739,203	764,187

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2022年6月30日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	49,689	41,657
リース負債	2,301	2,272
その他の金融負債	716	2,805
未払法人所得税	1,526	10,349
その他の流動負債	11,694	17,928
流動負債合計	65,926	75,011
非流動負債		
リース負債	6,501	6,377
その他の金融負債	0	0
退職給付に係る負債	3,322	3,359
繰延税金負債	1,009	995
その他の非流動負債	771	743
非流動負債合計	11,603	11,473
負債合計	77,529	86,484
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,241	17,080
自己株式	△74,683	△54,328
その他の資本の構成要素	51,236	50,282
利益剰余金	644,754	641,501
親会社の所有者に帰属する持分	655,906	671,894
非支配持分	5,768	5,808
資本合計	661,674	677,702
負債及び資本合計	739,203	764,187



(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書  
要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)	
	前第1四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上収益	87,363	106,722
売上原価	△22,799	△26,937
売上総利益	64,564	79,785
販売費及び一般管理費	△18,955	△21,726
研究開発費	△15,245	△19,413
その他の収益	188	106
その他の費用	△760	△590
営業利益	29,792	38,162
金融収益	1,316	1,159
金融費用	△303	△279
持分法による投資損益	△1	0
税引前四半期利益	30,804	39,041
法人所得税	△6,697	△9,513
四半期利益	24,108	29,528
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	24,074	29,477
非支配持分	34	51
四半期利益	24,108	29,528
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	48.23	60.37
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	48.22	60.36

## 要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第1四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益	24,108	29,528
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△1,684	△845
確定給付制度の再測定	210	△10
持分法適用会社のその他の包括利益を 通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	3	4
純損益に振り替えられることのない 項目合計	△1,471	△850
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	51	875
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動	9	144
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	60	1,019
その他の包括利益合計	△1,411	169
四半期包括利益合計	22,696	29,697
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	22,662	29,650
非支配持分	34	47
四半期包括利益合計	22,696	29,697

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分	非支配持分	資本合計
2021年4月1日残高	17,358	17,231	△44,705	62,299	581,950	634,133	5,610	639,743
四半期利益					24,074	24,074	34	24,108
その他の包括利益				△1,412		△1,412	1	△1,411
四半期包括利益合計	—	—	—	△1,412	24,074	22,662	34	22,696
自己株式の取得			△1			△1		△1
自己株式の処分		△31	31			0		0
剰余金の配当					△13,726	△13,726	△4	△13,730
株式報酬取引		11				11		11
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△210	210	—		—
所有者との取引額等合計	—	△20	30	△210	△13,516	△13,716	△4	△13,720
2021年6月30日残高	17,358	17,211	△44,675	60,677	592,507	643,079	5,641	648,720

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分	非支配持分	資本合計
2022年4月1日残高	17,358	17,241	△74,683	51,236	644,754	655,906	5,768	661,674
四半期利益					29,477	29,477	51	29,528
その他の包括利益				173		173	△4	169
四半期包括利益合計	—	—	—	173	29,477	29,650	47	29,697
自己株式の取得			△1			△1		△1
自己株式の消却		△171	20,356		△20,185	—		—
剰余金の配当					△13,671	△13,671	△6	△13,677
株式報酬取引		10				10		10
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△1,127	1,127	—		—
所有者との取引額等合計	—	△161	20,355	△1,127	△32,729	△13,662	△6	△13,669
2022年6月30日残高	17,358	17,080	△54,328	50,282	641,501	671,894	5,808	677,702

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前第1四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	30,804	39,041
減価償却費及び償却費	4,289	4,303
受取利息及び受取配当金	△1,116	△1,158
支払利息	17	22
棚卸資産の増減額(△は増加)	△271	△674
売上債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△7,858	△10,124
仕入債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△6,436	△5,937
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	79	24
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	-	12
その他	4,305	7,485
小計	23,815	32,995
利息の受取額	4	8
配当金の受取額	1,109	1,157
利息の支払額	△17	△22
法人所得税等の支払額	△18,155	△1,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,756	33,078
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,196	△2,166
無形資産の取得による支出	△5,099	△1,608
投資の取得による支出	△50	△88
投資の売却及び償還による収入	1,752	2,880
その他	△529	△339
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,121	△1,320
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△12,650	△12,652
非支配持分への配当金の支払額	△4	△6
リース負債の返済による支出	△622	△696
自己株式の取得による支出	△0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,276	△13,355
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△11,641	18,403
現金及び現金同等物の期首残高	61,045	69,112
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	57	424
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,462	87,940

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループの事業は医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主な製品の売上収益と予想

(単位：億円)

製品名	2023年3月期 第1四半期連結累計期間			当連結会計年度		
	実績	前年同期比		予想	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
オプジーボ点滴静注	341	51	17.4%	1,550	426	37.8%
フォシーガ錠	131	56	75.3%	470	103	28.2%
オレンシア皮下注	62	5	9.4%	230	1	0.5%
グラクティブ錠	60	△4	△6.7%	230	△15	△6.3%
カiproリス点滴静注用	22	3	12.6%	90	6	7.6%
パーサビブ静注透析用	21	△1	△3.1%	80	△9	△9.9%
ベレキシブル錠	21	6	45.1%	70	7	11.7%
オンジェンティス錠	12	10	399.8%	50	21	73.6%
オノアクト点滴静注用	11	△1	△8.7%	45	△4	△7.6%
オパールモン錠	11	△1	△6.5%	35	△12	△26.0%
ビラフトビカプセル	9	2	30.6%	35	8	27.4%
メクトビ錠	7	2	29.5%	25	3	11.7%
オノンカプセル	7	△4	△36.3%	25	△11	△29.7%

(注) 1. 仕切価格(出荷価格)ベースでの売上収益を開示しております。  
 2. 当連結会計年度の予想売上収益については、現在承認されている適応症のみを対象としております。

(2) 売上収益の内訳

(単位：億円)

	2022年3月期 第1四半期連結累計期間	2023年3月期 第1四半期連結累計期間
製品商品	605	722
ロイヤルティ・その他	268	346
合計	874	1,067

(注) 「ロイヤルティ・その他」の中には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」に係るロイヤルティ収入が、前第1四半期連結累計期間には170億円、当第1四半期連結累計期間には208億円、メルク社からの「Keytruda®」に係るロイヤルティ収入が、前第1四半期連結累計期間には68億円、当第1四半期連結累計期間には98億円、それぞれ含まれております。

(3) 地域別の売上収益に関する情報

(単位：億円)

	2022年3月期 第1四半期連結累計期間	2023年3月期 第1四半期連結累計期間
日本	598	708
米州	246	319
アジア	19	27
欧州	11	13
合計	874	1,067

(注) 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(4) 開発品（がん領域）の主な進捗状況

2022年7月25日現在

<承認取得開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	食道がん*1	注射	日本 台湾	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★ : 「オブジーボ」との併用試験

2022年3月期決算発表からの変更点

※1 : 「オブジーボ」と「ヤーボイ」との併用療法および「オブジーボ」と化学療法との併用療法について、国内および台湾で「根治切除不能な進行・再発の食道がん」を効能・効果とした承認を取得しました。

<臨床試験中開発品>

<オブジーボ>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能追加	肝細胞がん	注射	日韓	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	卵巣がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膀胱がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	前立腺がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	膵がん	注射	日韓台	II	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	ウイルス陽性・陰性固 形がん	注射	日韓台	I / II	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

<b>&lt;ヤーボイ&gt;</b> <span style="float: right;">*) : 共同研究により創出された化合物を含む</span>						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能追加	胃がん	注射	日韓台	Ⅲ	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	食道がん	注射	韓国	Ⅲ	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	尿路上皮がん	注射	日韓台	Ⅲ	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	肝細胞がん	注射	日韓台	Ⅲ	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能追加	ウイルス陽性・陰性固 形がん	注射	日韓台	I / II	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
<b>&lt;I-0関連&gt;</b> <span style="float: right;">*) : 共同研究により創出された化合物を含む</span>						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ONO-4686* (BMS-986207)	新有効成分	固形がん／抗TIGIT抗体	注射	日本	I / II	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-4482* (BMS-986016) /Relatlimab	新有効成分	悪性黒色腫 ／抗LAG-3抗体	注射	日本	I / II	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7475*	新有効成分	固形がん ／Ax1/Mer阻害作用	錠	日本	I	自社
ONO-4578*	新有効成分	結腸・直腸がん ／プロスタグランディ ン受容体 (EP4) 拮抗作 用	錠	日本	I	自社
	新有効成分	膵がん／同上	錠	日本	I	自社
	新有効成分	非小細胞肺がん ／同上	錠	日本	I	自社
	新有効成分	固形がん・胃がん ／同上	錠	日本	I	自社
ONO-7913* /Magrolimab	新有効成分	膵がん／抗CD47抗体	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	結腸・直腸がん／同上	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
ONO-7119* /Atamparib	新有効成分	固形がん／PARP7阻害作 用	錠	日本	I	導入 (ライオン社)
ONO-7122*	新有効成分	固形がん／TGF-β 阻害 作用	注射	日本	I	導入 ( Bristol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7914*	新有効成分	固形がん／STINGアゴニ スト	注射	日本	I	自社



<b>&lt;その他&gt;</b> <span style="float: right;">*) : 共同研究により創出された化合物を含む</span>						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ONO-7913 /Magrolimab	新有効成分	TP53変異陽性急性骨髄性白血病／抗CD47抗体	注射	日本	Ⅲ	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	急性骨髄性白血病 ／同上	注射	韓台	Ⅲ	導入 (ギリアド社)
ビラフトビカプセル /エンコラフェニブ	効能追加	甲状腺がん ／BRAF阻害作用	カプセル	日本	Ⅱ	導入 (ファイザー社)
メクトビ錠 /ビニメチニブ	効能追加	甲状腺がん ／MEK阻害作用	錠	日本	Ⅱ	導入 (ファイザー社)
ONO-4059 /チラブルチニブ塩酸塩	新有効成分	中枢神経系原発リンパ腫 ／BTK阻害作用	錠	米国	Ⅱ	自社
ONO-7475	新有効成分	急性白血病 ／Ax1/Mer阻害作用	錠	米国	I / Ⅱ	自社
	新有効成分	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌 ／同上	錠	日本	I	自社
ONO-7913 /Magrolimab	新有効成分	固形がん／抗CD47抗体	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	骨髄異形成症候群 ／同上	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
ONO-4578	新有効成分	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がん／プロスタグランジン受容体 (EP4) 拮抗作用	錠	日本	I	自社
ONO-4685	新有効成分	T細胞リンパ腫 ／PD-1×CD3二重特異性抗体	注射	米国	I	自社

★ : 「オプジーボ」との併用試験

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

(5) 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況

2022年7月25日現在

<申請中開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
オノアクト点滴静注用/ ランジオロール塩酸塩	小児での 効能追加	心機能低下例における頻脈性不 整脈／短時間作用型β <sub>1</sub> 選択的遮 断作用	注射	日本	自社

<臨床試験中開発品>

\*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ONO-2017 /Cenobamate	新有効 成分	てんかん強直間代発作 ／電位依存性ナトリウム 電流阻害/GABA <sub>A</sub> イオンチャ ネル機能増強作用	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
	新有効 成分	てんかん部分発作 ／同上	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
ベレキシブル錠 /チラブルチニブ塩酸 塩	効能 追加	天疱瘡／BTK阻害作用	錠	日本	III	自社
ONO-2910	新有効 成分	糖尿病性多発神経障害 ／シユワン細胞分化促進 作用	錠	日本	II	自社
ONO-4685	新有効 成分	自己免疫疾患 ／PD-1×CD3二重特異性抗 体	注射	日欧	I	自社
ONO-7684	新有効 成分	血栓症／FXIa阻害作用	錠	欧州	I	自社
ONO-2808	新有効 成分	神経変性疾患 ／S1P5受容体作動作用	錠	日欧	I	自社
ONO-2909	新有効 成分	ナルコレプシー／プロス タグランディン受容体 (DP1) 拮抗作用	錠	日本	I	自社
ベレキシブル錠 /チラブルチニブ塩酸 塩	効能 追加	全身性強皮症 ／BTK阻害作用	錠	日本	I	自社
ONO-2020 <sup>※2</sup>	新有効 成分	神経変性疾患／エピジェ ネティクス制御作用	錠	米国	I	自社

2022年3月期決算発表からの変更点

※2: エピジェネティクス制御薬「ONO-2020」について、米国で「神経変性疾患」を対象としたフェーズI試験を開始しました。